

<b>Title</b>	中国の対北朝鮮支援が北朝鮮に及ぼす影響(資料編：報告 2)
<b>Author(s)</b>	趙, 明哲
<b>Citation</b>	聖学院大学総合研究所紀要, 第50号別冊 日・韓国際学術シンポジウム「東アジアの平和と民主主義」特集号, 2011.3 : 53-64
<b>URL</b>	<a href="http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=3169">http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=3169</a>
<b>Rights</b>	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

〈報告2〉

## 中国の対北朝鮮支援が北朝鮮に及ぼす影響

趙 明 哲

### 1. 問題の提起

- 体制転換国や市場経済導入国家の経済動向に表れる一般的な特徴は、経済の対外依存度が急激に高まるということである。
  - このような現象の原因は、改革政策の主要目標が社会主義時代の閉鎖的経済運営から脱皮し、海外市場との積極的な連携を通じて経済問題を解決していこうとするためである。
  - 最近の北朝鮮の対外経済推移において特記すべき事実は、中国に対する貿易依存度が増加するのに比べ、全般的な対外貿易の依存度は大きく増加していないという点である。
  - 原因は中国との対外経済的連携が深まる反面、他の国家との経済的連携は増加しないか、むしろ減少しているためである。
- 韓国と国際社会では、最近展開されている中・朝の経済関係について様々な問題提起をしている。
  - 第1に、中-朝経済関係が正常な経済取引関係であるかについての問題提起である。
    - 中-朝の経済関係が北朝鮮経済の中国への依存度を急激に高める方向へと展開されているという問題提起
    - 中国が自ら必要だと認める時期に北朝鮮に対する経済的影響力を行使するなら、北朝鮮が受けることになる経済的波及効果は非常に大きいはずだというものである。
    - 経済的依存性の増大が、結局政治的依存性の増大という結果に繋がるという普遍的論理を基準に見ると、北朝鮮が経済的波及を避

けようと、政治・外交的に中国に益々依存する結果を生むはずだという問題提起である。

- これは北朝鮮が朝鮮半島の利益を中心に独立的で独自の行動をとらなければならない時期が到来した時でさえも、中国の顔色を伺い、中国の干渉から逃れられなくなるということ意味する。
- 第2に、現在の中-朝関係が将来の韓国・北朝鮮の統合と統一に否定的な影響を与えるだろうという問題提起である。
  - 韓国・北朝鮮は長期的に経済統合と政治統一を成し遂げなければならぬ宿命的課題を抱えている。
  - 北朝鮮が鉱物、エネルギー、インフラなどの戦略的資源の部分まで中国に売買する状況で、南北経済統合の利点が消滅する可能性もあるという問題提起
  - 即ち、北朝鮮の豊富な資源及び地理的利点と韓国の資本及び技術を結合させて、強力な統一経済をつくり上げることができるという既存のロマンチックな期待が消滅する可能性もあるということ
- 中-朝の経済取引の構造が、果たして北朝鮮が利益を得られる構造であるかについての問題提起である。
  - 中-朝の経済関係は取引で損害を被り、支援で恩恵を受ける慢性的構造
  - 取引は利益を前提に追求、取引にはWIN-WINもあるが、相手側の損害を前提にした取引もある。
  - 取引が損害を被る時は、多様な原因が存在（制度、政策、慣行、不正腐敗など）
  - しかし、損害を生む構造を解消しようとする当局の努力がないなら、それに値する理由が存在（政治体制の安定、南北対決状況、米-朝対決状況など）
  - 政治的原因によって損害を被る構造が変わらなければ、北朝鮮経済の中国に対する依存構造は持続的な深刻化が避けられない
- 北朝鮮が国際経済制裁の下で、それに建国以来最悪の経済難の中でも体制を維持しているのは、非効率的ではあるが内部循環生産消費体系が作動しており、最小限の外部支援が中国を通じて持続的に供給されているためであると評価

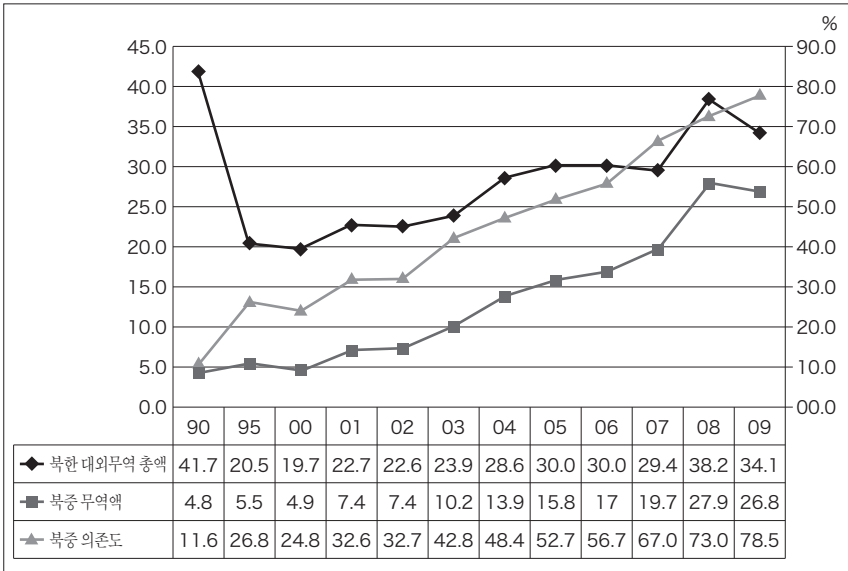
- 建国以来最大の経済難の中でも北朝鮮体制は健在
- 理由は閉鎖的な内部生産循環体系の作動と中国からの最小限の資源供給
  - しかし、このようなものがどのように供給され、どのように分配されて生産循環体系を成すのか明確なものがない。
- 従って、中国の対北朝鮮支援が北朝鮮経済と体制維持にどのように寄与するのかを明らかにすることが非常に重要。
- 韓国の北朝鮮に対する政策は、中国へと傾きつつある北朝鮮を管理することまでを含めた包括的で、多面的で、実効的な政策へと転換されなければならない。
  - 理由はどうであれ、結果的に北朝鮮経済が中国に隷属するのには韓国の責任も明らかにある。
  - 韓国は朝鮮半島の唯一の合法的政府として自負しており、北朝鮮に比べて全ての面で可能性を持っていて、特に統一を志向しているため、現存する状況を防ぐ責任がある。

## 2. 中-朝の経済関係の現住所

- 中-朝の交易規模（図1参照）
- 2009年の両国間の全体貿易額は26億8千万ドルで、2008年対比3.8%減少した（2000年以降初めて減少）
  - 北朝鮮の中国に対する貿易依存度は03年の42.8%から06年の56.7%、08年の73%に上昇していき、09年に78.5%を記録して歴史上最大値を記録した。
    - 北朝鮮の中国に対する貿易依存度が深まった原因は、最大の友邦国である中国との地理的隣接性と原油、原資材などの主要輸入品を中国に依存しているためであり、特に南北関係が塞がっていることによる南北交易の萎縮、アメリカ、日本、国際社会の経済制裁に影響を受けた結果だと解釈される。
  - 2009年の北朝鮮の5大貿易対象国は中国、ドイツ、ロシア、インド、シンガポールである。

図1 北朝鮮の貿易総額対比, 中-朝貿易額

(単位: 米ドル, %)



\*最上の線から「北朝鮮の対外貿易総額」「中朝貿易額」「中朝依存度」

\*資料: KOTRA (2010). 『2009 北朝鮮の対外貿易動向』。

○ 北朝鮮が2009年に中国に輸出した総額は7億9千万ドル, 輸入は18億9千万ドルである。

□ 北朝鮮の主要輸出, 輸入品目

— 北朝鮮の2009年度の主要輸出品は鉱物性生産品, 非金属類, 繊維製品などである。

○ 2009年度の北朝鮮の全体の輸出で鉱物性生産品が占めた比重は41.9% (4億5千万ドル) であり, その後に続いて非金属類15.3% (1億6千万ドル), 繊維製品14.1% (1億5千万ドル) が占める。

— 北朝鮮の2009年度の主要輸入品は繊維製品, 鉱物性生産品, 機械・電気電子などである。

○ 2009年度の北朝鮮の全体の輸入で繊維製品が占めた比重は15.4% (3億6千万ドル) であり, その後に続いて鉱物性生産品15% (3億5千万ドル), 機械・電気電子14.7% (3億4千万ドル) が占める。

表1 中国の北朝鮮に対する無償援助額と食糧及び石油供給量

区分 年度	無償 援助額 (万ドル)	食糧供給量 (万トン)				原油供給量 (万トン)		
		穀物 (HS10)	小麦粉 (HS11)	小計	WFPに 報告した 援助物量	原油 (HS2709)	石油製品 (HS2710)	小計
1995	609	15	7	22	n. a.	102	n. a.	n. a.
1996	4,014	55	33	88	10	94	n. a.	n. a.
1997	3,441	87	27	114	15	51	n. a.	n. a.
1998	3,205	29	12	41	15	50	15	65
1999	4,836	24	5	29	20	32	12	44
2000	2,756	28	4	32	28	39	11	50
2001	6,913	44	6	50	42	58	11	69
2002	1,597	22	6	28	33	47	8	55
2003	1,089	35	5	40	21	57	12	70
2004	1,456	9	7	16	12	53	13	66
2005	3,812	33	11	44	n. a.	52	14	67
2006	3,736	8	13	21	13	52	12	65
2007	n. a.	14	14	28	29	52	15	67
2008	n. a.	12	1	13	n. a.	53	12	65
総計	n. a.	415	151	566	n. a.	793	n. a.	n. a.

\*資料：金ソクジン。(2009), p.152。

#### □ 投資規模

— 2009年度の北朝鮮に対する国際社会の対北朝鮮投資額は、2007年以降最低値である200万ドル<sup>(1)</sup>を記録する。

○ 2007年の国際社会の対北朝鮮投資額の推定値は6700万ドルである反面、2008年には4400万ドルに減少し、これは2009年に200万ドルに急減する<sup>(2)</sup>。

#### □ 中国の北朝鮮への支援規模

— 中国の北朝鮮に対する無償支援の規模は多少増減を見せるが、全般的に増加傾向を見せている。

○ 2006年の北朝鮮に対する中国の無償援助額は3,700万ドルと推定される。

— 中国の対北朝鮮支援は食糧と原油などの現物支援も並行して実施されるが、2008年の食糧支援額は13万トンだと推定され、原油は65万トンが支援されたと知られている<sup>(3)</sup>。

### 3. 中国の対北朝鮮支援が北朝鮮経済の成長をもたらしたのか

— 過去の研究によれば、2004年基準で見ると、中-朝交易が1%増加すると、北朝鮮の経済成長率は約0.112%増加し、北朝鮮の所得は約0.198%増加すると推定することができる<sup>(4)</sup>。

— しかし、このような推定値は2004年を基準に評価したもので、中国の高い経済成長率と北朝鮮の中国に対する依存度がより深まったことを鑑みると、成長と所得は現在これよりももっと高い数値で表れるものとみられる。

○ 2004年に北朝鮮の対外経済において、中-朝交易が占める比重が48%程度だったが、現在は79%以上に急増し、交易成長率も18%以上になるため、北朝鮮の成長率と所得成長に及ぼす影響が遥かに大きくなったはずである。

○ これを鑑みると、2009年の時点で、中-朝交易が1%増加すると北朝鮮の経済成長率は0.152%増加し、所得は0.26%程度増加す

ると見られる。

□ 国民生活に及ぼす影響

- 配給体系が破壊された今、北朝鮮住民のほとんどは市場で生活物資を調達している。
- 現在、北朝鮮住民が絶対的に依存している市場で、消費財の最も大きな供給者は中国人であり、中国商品が絶対的な比重を占める<sup>(5)</sup>。
  - 個人の中国産の原資材の輸入増加率は2009年基準で46%
  - 市場販売の工産品のうち、中国からの密輸入規模は20%程度
  - 市場で流通される商品のうち、中国産の比重は83%程度、その中で食糧の比重は67%程度
  - 収買再生商店で中国産が占める比重は75%程度、華僑が掌握する収買商店の比重は30%程度
  - 貸金業者の40%以上が中国の華僑
- 結論的に、北朝鮮経済と産業生産及び国民生活に及ぼす中国の影響は絶対的である。

□ しかし、過去20年の間、北朝鮮経済の年平均成長率はマイナス

- 年平均の成長率：-1.4%程度（1991年—2009年の間）
- 国民所得: 1024ドル：世界で最貧国の隊列の国家
- 北朝鮮経済で中国の占める相対的比重だけが大きくなって、実質的な成長をもたらすことはできなかった。
  - 1991年の北朝鮮の対外経済において、中国が占める比重が24%程度だったならば、現在は80%程度
  - だが、北朝鮮経済は経済難と食糧難から抜け出せずにいる。
  - 原因は他国との取引は減り、中国の取引は増えて、相対的比重増加だけをもたらしたため

□ 北朝鮮に対する中国の経済的地位は交易1位、投資1位、支援1位だが、その結果は北朝鮮のマイナス成長と食糧難に代表される。



#### 4. 北朝鮮は中国一辺倒の経済関係を多変化させることができるか

- 北朝鮮の対外経済の多変化は、北朝鮮の対外政策の合理化に寄与
  - しかし、このためには北朝鮮が平和的かつ開放的でなければならない。
  - 不幸にも、北朝鮮はそうする意志がない。
- 国際社会が北朝鮮に加える経済制裁
  - 一般的な規制を通じた制裁——バセナル協約による輸出統制国家
    - 北朝鮮経済が質的に、高度技術へと成長するための可能性を制約
  - 多国間の規制を通じた制裁
    - UN, 国際金融機構, 地域安保機構などを通じた経済制裁
  - 二国間の経済制裁を通じた抑制
    - アメリカ, 日本, ヨーロッパなど先進国のほとんどが参加。
  - 核心は2種類: 核と体制の性格
  - しかし、北朝鮮はこの2種類を解決する気がない。
- 北朝鮮は体制維持が最も重要な国益で、このために核放棄と改革、開放ができないなら、今の制裁は続かざるをえない。
  - 国際社会と先進国は北朝鮮の要求について、北朝鮮を取引するに値する影響力のある強国として認識していない。
  - むしろ、北朝鮮よりは中国に対する刺激を通じて、北朝鮮問題を解決しようとする。
- 世界に出ていく道がない北朝鮮としては、中国が唯一の代案で命綱
  - 中国との取引は取引費用が相対的に最も少なくて済む取引
  - 中国との経済取引は政治的条件がない取引
  - 中国との経済取引は国家管理（統制）が可能な取引
  - 所詮、世界に出てみても相手をしてくれる国家はあまりなく、取引費用も増加
  - 結論的に、現状で北朝鮮の対外経済は中国一辺倒から脱皮することもできず、脱皮しても危険である。
- 原因と過程がどうであれ、北朝鮮体制の硬直性と唯一支配体制がこのよう

な環境を生み出し、アメリカ、韓国をはじめとした国際社会が北朝鮮を中国へ追い立てて、今もこの環境は変わらない。

— 従って、北朝鮮の選択の余地がない状況下で、北朝鮮経済の中国に対する依存度が持続的に深まるのは避けられない。

## 5. 北朝鮮は中国との取引で利益を出すことはできないのか

□ 中-朝貿易の品目構造を見ると、北朝鮮は競争相手ではない。

— 北朝鮮の中国に対する貿易競争力を把握するためには、中国に対する貿易特化指数を分析してみなければならない<sup>(6)</sup>。

○ 北朝鮮の中国に対する輸出特化品目は12種類ほどで、中国に対する輸入特化品目は84種類ほどである。

○ 北朝鮮の中国に対する輸出特化品目はHS96種類中、魚貝類0.89、鉄鋼0.02、金属鉱物0.57、亜鉛0.30、木材0.85など12品目に過ぎず、特にこれらの中で貿易特化指数が、0.5以上である品目は魚貝類、金属鉱物、木材、絹、骨董品など5つの品目に過ぎない。

○ その反面、中国に対する輸入特化品目は84種類で、輸出特化品目12種類の7倍に達し、これらのうち、貿易特化指数が-0.9以下である品目が50種類で、全体の品目の半分以上を占めるほど輸入依存度が非常に高い。

○ これは北朝鮮の中国に対する貿易競争力が絶対的に脆弱だということを証明

□ 取引体制と慣行においても、損害を被らざるをえない環境と構造

— 取引制度の非効率、政策の非機動性、担当者の無知など数多くの障害要素が存在

— 取引の収益が販売者に回っていかない構造——特定機関が独占

— 非競争力部分の競争力の引き上げに輸出収益が投資されない構造

— 取引の多変化のための資本蓄積がされておらず、投資者もいない。

□ 2つの体制の異質性は、北朝鮮が貿易競争で負けざるをえない環境

— 中国は市場経済であり、競争を命としてみなし、取引に臨む。

— 北朝鮮は計画経済であり、指令による行動が即ち命であり、結果に責

任を取らない。

- すべての情報価格、行動様式などは政府が指令、取引者は指令を命とみなす——収益の有無は政府の責任
- 中国の企業と個人は取引自体が命であり、収益自体が命
- 責任性と機動性において勝つことができない環境

## 6. 北朝鮮の改革と開放は中国に実際に有益なのか

- 中国の北朝鮮への政策は北東アジアの安定が最優先視される条件で、経済的關係が拡大されることである。
  - この2つの条件の中で、最優先は絶対的に安定である。
  - 北朝鮮が改革と開放をするということは、体制崩壊にもつながる可能性がある賭博のような行為であり、中国の立場から見ると、北東アジアの安定を害する可能性もあるという意味である。
  - 現実的に、北朝鮮の現存する政治体制を保ちながら、積極的な改革、開放のできる代案は存在しない。
  - だとすると、中国の立場では、経済難に喘いでいても北朝鮮の政治体制を存続させることが国益に符合
- 北朝鮮体制が改革・開放されない過去30年の間、中国は高度成長を遂げ、世界2位の経済大国を成し遂げた。
  - これは中国の周辺国での安定があったために可能、北朝鮮の安定も同じ
  - 中国は“改革・開放への誘導は北朝鮮の安定を害して体制転換をしようとするアメリカとヨーロッパ及び韓国の意図”だと解釈する北朝鮮の主張に積極的に同調
  - 内面的には中国の東北地域の安定に有利だと判断。
- けれども、北朝鮮経済のひどい混乱はむしろ安定にも役立たないという判断の下に、毎年適正な水準（安定を維持する水準）で支援を活用
  - 北朝鮮に対する中国の支援は、北朝鮮経済ではなく中国の東北地域の安定に対する代価を支払うもの
  - それは違う方法で表現すると、改革と開放をせず、政治体制を維持し

て、アメリカと韓国の北上を防いでくれた労苦に対する支払い

## 7. 我々は何をしなければならないのか

- 中国の変化要因を大きく取り扱う政策環境作りが最優先課題である。
  - これまで、我々の北朝鮮に対する政策で、中国の変化要因は大きく取り扱われなかった。
  - 誰もが中国の北朝鮮に対する経済制裁が最も大きな刺激になると述べながらも、中国がそのような行動をとるように政策を講じていない。
  - 特に、最近の外交政策はむしろ反対方向に疾走
- 北朝鮮に中国以外に他の道があることをわからせる知恵が必要
- 所詮、中国と競争しなければならないなら、競争力の確保が鍵
  - 競争力のある制度の構築と実質的な適用
  - 物理的な連携分野での競争力の確保
  - 新しい物流、通行、通信、通関体系の確立
  - 韓国・北朝鮮の自由交易の推進
  - 韓国・北朝鮮の産業依存性の拡大
- 中国の北朝鮮に対する経済政策と衝突過程を最大限避けなければならない
  - 中国の経済政策と経済開発戦略の活用
  - 中・朝・韓の3角協力の推進などが対応課題として提示されている。

## 注

- (1) 推定値である。
- (2) UNCTAD (2010), World Trade Investment. 推定値である。
- (3) 金ソクジン (2009), 『開発援助の国際規範と北朝鮮への政策に与える示唆点』, 産業研究院。
- (4) 趙明哲, “北朝鮮経済の中国に対する依存度の深まりと韓国の対応方案,” (対外経済政策研究院, 2005.12)。
- (5) 次は脱北者調査資料, 2009.5基準。

- (6) 貿易特化指数は商品の比較優位を表す指標で、北朝鮮の中国に対する貿易競争力の指数として使えるが、0以上、1以下ならば、その製品や産業が貿易黒字を記録し競争力があると評価することができ、-1に近いほど貿易競争力は弱い、輸出をすることができないと判断することができる。